

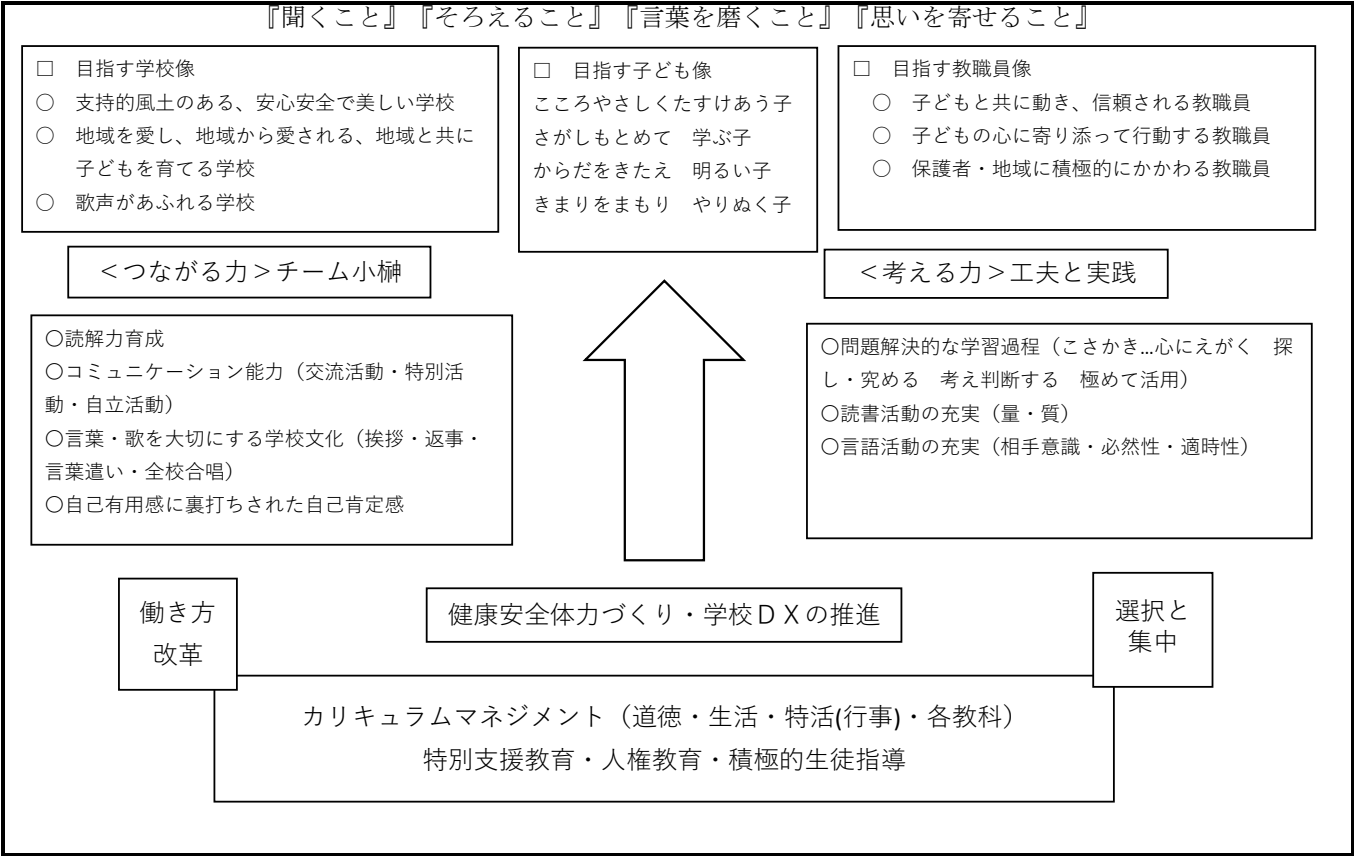
1 教育目標

～「いい顔 いい声 いい心」の学校～
自ら考え協働する、心豊かで粘り強い子どもの育成

2 学校経営方針

～「よく遊ぶ」「よく働く」「よく学ぶ」ことを意識した
教育の実践を通して～

3 重点目標



4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	90	96	96	学校教育目標や明るく楽しい学校の実現について、おおむね達成できた。今後も学校教育目標の実現へ向け努力していく。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	90	97	97	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	91	88	59	生活面では、ルールを守ることや挨拶について課題が見られた。引き続き指導をしていく。いじめ防止へ向けて、毎月の生活アンケートや日頃の見守りに継続して取り組む。 「あはは運動」について、学校だより等を通して保護者へ周知を図る。児童へも生活目標と関連付けて周知を図り、各家庭と協力して実践的な態度育成をしていく。
		挨拶をよくしている	91	79	76	
		「あ・は・は運動」を知っている（小学校のみ）	73	75	100	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	91	92	97	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	93	87	98	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	96	96	93	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	90	82	86	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	93	94	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	93	96	97	地域の行事等で高学年児童が小紳ソールンを披露する場面が多く見られました。元気な児童の姿を地域に届けることができました。 学習については、今後もわかりやすい授業・児童の資質能力を伸ばすことを意識した授業に取り組んでいきます。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	95	96	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	89	75	100	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	91	91	96	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	95			
健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	95	95	97	新型コロナウイルスが5類に位置付けられたことで、体力向上へ向けての活動も充実することができた。今後も食育と併せて、健康な体作りに努めていく。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん（基本的生活習慣）が身に付いている	80	85	90	
		体力向上に努めている	84	82	93	
	食育	食に関する教育活動を行っている	93	97	100	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	97	93	97	安全面や学校の様子について、テトルを活用して情報発信に努めてきた。保護者からも高い評価を得ることができた。今後も保護者、地域と情報を共有し教育活動を進めていく。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	94	97	100	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	95	96	100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	94	96	93	今後も安全な教育環境、学びやすい教材教具の準備等に心掛ける。

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

【成果】

保護者からほぼすべての面でおおむねよい評価をいただいた。日頃の職員の連携や協力の良さ、保護者への丁寧な対応の結果と考えている。児童の満足度も高いのは、大変喜ばしいことである。更に高めるように努力していきたい。

特別支援教育コーディネーターを中心に教育相談、SCの活用を推進してきた。保護者の悩みや児童の困り感の解消を図り、それぞれの児童の実態に応じた指導や声掛けができた。担任にとっても、児童・保護者の対応について、安心して相談できた。

安全管理については、日頃の交通安全指導や育友会、交通安全指導員、地域の方等の協力を得て大きな事故もなく過ごすことができの大きな成果である。次年度以降も地域の方々に御協力を頂きながら『交通安全教室』を実施する。情報提供については、テトルを活用したこまめな情報発信を心がけた。育友会研修案内、生活上の注意喚起、感染症情報、学校や学級だより等発信できた。食育については、栄養教諭が食育ルームを通して、季節や行事に合わせた献立説明を配信し、各学級の電子黒板に提示し指導できた。ICTを様々な場面で活用し効果を上げることができた。

【課題・対策】

生活指導については、挨拶や公共物の使用、公園でのマナーについて、課題があることを保護者や地域と共通理解し、足並みをそろえて児童への指導を行っていくのが効果的であると考える。育友会、育成協、自治会等とも連携をとっていきたい。

生活指導やいじめ防止や人権教育については、情報モラル教育の充実を図りながら、課題解決に取り組む。人権教育については、保護者の理解を高めるために、今年度も道徳科の授業を保護者や地域の方々に公開するなどして、理解を図っていく。また、学校や学級便り、ホームページ、テトルなどによる学校からの積極的な情報発信を今後も継続し、情報を素早く共有することで、保護者・地域の方々の理解・協力を得ていきたい。

6 学校関係者評価

あいさつについて、昨年より自分からあいさつができる児童が増え、こちらからのあいさつにも9割くらいの児童が返してくれる。ずいぶんとよくなった印象がある。学校での指導がよくできている。さらには、家庭での指導も必要であると感じる。西泊中学校へ行くと、生徒たちがよくあいさつしてくれる。小学校からのつながりを感じる。いじめについては、学校外でのいじめが心配である。「ライン」内でのいじめなど見えにくい部分があるのではないかと。学校教育全般で、学年同士の縦のつながりを感じる活動があり、地域学習もよくできている。特別支援教育も充実し、体力づくりも進めようとしている。評議員が管理をしているふれあいセンターでは、脱いだ靴の整頓について注意する場面があった。児童生徒の遊び場として大いに活用してもらいつつ、マナーの面でも教育をしていきたい。地域としても協力していく。

7 対策の見直し

上記対策に加え、評議員から指摘のあった、見えにくい部分のいじめについて対応を考えたい。SNS上の児童同士の誹謗や中傷など、生活アンケートなどで情報を集め指導につなげることができるようになりたい。